

■ 特集展示「松居石材商店の歴史」展示リスト ■

No.	資料名称	年代	数量	備考
石の仕事				
1	手嶋入用扣	(江戸時代後期～明治初期)	1冊	江戸時代後期～明治初期の仕事の記録。
2	定価表	明治31年1月	1枚	
3	石製品図面	—	244枚のうち	
4	井伊直弼公供養塔文字原稿	—	1枚	天寧寺の井伊直弼供養塔の文字原稿。
5	井伊直弼銅像台石工事契約書	明治43年7月26日	1綴	彦根の明治43年建立の銅像の台座製作。
6	上田寛道翁碑図面	—	1枚	上田寛道は鳥居本の人。
7	明治天皇御聖蹟建設関係書類	—	3点	愛知川宿に所在の石碑の関係書類。
8	官幣大社多賀神社幣殿外二廉石及基礎工事設計書及び契約書	昭和5年10月～11月	2冊	
9	石材購入関係書簡	昭和5年～6年	4枚	多賀大社造営のための石材購入。
10	多賀神社北海道分社鳥居引古写真	大正9年11月1日	1枚	
11	彦根城山開設物産共進会褒状	明治36年5月10日	1枚	石造の釣船を出品したことに対するもの。
12	石造釣燈籠	(明治36年頃)	1挺	第5回内国勸業博覧会に出品。
土木工事の仕事				
13	金銀銅鉛試掘鉦区図	大正8年9月29日	1枚	青波村大字古沢・芹川、松原村、坂田郡鳥居本村大字古西法寺・鳥居本・小野での試掘。
14	賤ヶ嶽隧道工事関係書類	(大正～昭和時代)	19点	
15	賤ヶ嶽隧道西口題額原稿	(大正～昭和時代)	1枚	
16	朝鮮人街道道路改修工事仕訳書	大正9年	1冊	佐和山隧道とその付近の道路改修工事。
17	朝鮮人街道道路改修工事縦断面図	(大正～昭和時代)	1枚	佐和山隧道とその付近の道路改修工事。
18	朝鮮人街道道路改修工事平面図	(大正～昭和時代)	1枚	佐和山隧道とその付近の道路改修工事。
19	佐和山隧道開通記念祝賀会祝詞	大正13年6月23日	1枚	
20	感謝状(佐和山隧道工事請負に対して)	大正13年6月23日	1枚	
21	佐和山隧道西口題額拓本	—	1枚	
22	佐和山隧道東口題額拓本	—	1枚	
23	佐和山隧道古写真	(大正～昭和時代)	1枚	
24	土木工事関係書類	—	10点	賤ヶ嶽隧道、佐和山隧道以外の土木工事
25	隧道構造図	—	1枚	
地域の名望家				
26	大正記念名鑑	大正3年5月1日	1冊	編輯奥田捨之丞、発行所淡海新報社。松居六三郎が紹介されている。
27	年賀状人名簿	明治39年	1冊	
28	日下部鳴鶴書簡 宮崎鉄幹宛	5月16日	1通	東京の日下部鳴鶴から彦根の宮崎鉄幹あて。松居氏と宮崎鉄幹とは親戚。
29	日下部鳴鶴書簡 宮崎鉄幹宛	8月10日	1通	東京の日下部鳴鶴から彦根の宮崎鉄幹あて。松居氏と宮崎鉄幹とは親戚。
30	七言詩書「小娃三両…」	—	1幅	日下部鳴鶴筆。
31	いろは歌	—	1幅	日下部鳴鶴筆。
32	賞状	明治25年～昭和3年	7枚	彦根町消防器具購入費や窮民救済などに金員を寄附、また公会堂前に石燈籠そのものを寄附など。
33	双鶴図	—	1幅	岡島徹州画。
34	表彰状(多年彦根町の公職にあり町勢の発展振興に貢献したことに対して)	昭和10年12月6日	1通	滋賀県彦根町長正五位勲四等平塚分四郎から松居六三郎へ宛てたもの。
35	感謝状(区長・町会議員として町及び大字のために尽力したことに対して)	昭和6年1月	1通	彦根町大字彦根町民一同から松居六三郎へ宛てたもの。
36	五字書「雲根即富源」	明治43年	1面	小野湖山筆。「石が富の源である」との意。

※すべて個人蔵
※指定文化財はありません

写真解説

- 1 ^{い い なおすけ こうく ようとう も じげんこう}井伊直弼公供養塔文字原稿 1枚 【展示リスト4】
縦157.5cm 横23.4cm 年月日未詳
個人蔵

^{てんねいじ}天寧寺(彦根市里根町)にある井伊直弼供養塔のかたわらに「井伊直弼公供養塔」と彫られた案内表示の石碑があります。その文字原稿が本資料です。供養塔は文久元年(1861)に建てられたもので、案内表示の石碑はそれよりも後に建てられたと考えられます。

おおもとはこの文字を普通に筆で書いた原稿があったと推測され、本資料は、トレーシングペーパーのような紙で、その線の輪郭をなぞって書いています。これにさらに、赤鉛筆のようなもので紙の裏面に文字の輪郭をなぞっています。この赤色を石材に転写して、石材を彫っていたと見られます。

現在も知られている石造物を松居石材商店はいくつも手がけていますが、これもその一例です。製作の過程が窺えるとともに、この案内表示の石碑の仕事に携わったことが分かる資料です。



- 2 ^{せきぞうつりどうろう}石造釣燈籠 1挺 【展示リスト12】
縦21.7cm 横16.5cm (明治36年(1903)頃)
個人蔵

明治36年に大坂で開催された第5回内国勸業博覧会に出品された、石で作られた釣燈籠です。松居石材商店3代目の松居六三郎による作品です。

一部を除き、鎖の部分まで含めて一つの石から切り出して製作しています。屋根の端の渦巻き形の返しなどの細かな装飾は、石造品を作る際の難しい造作です。また、内側・裏側まで丁寧に作られており、松居六三郎が高い技術を持っていたことが分かります。

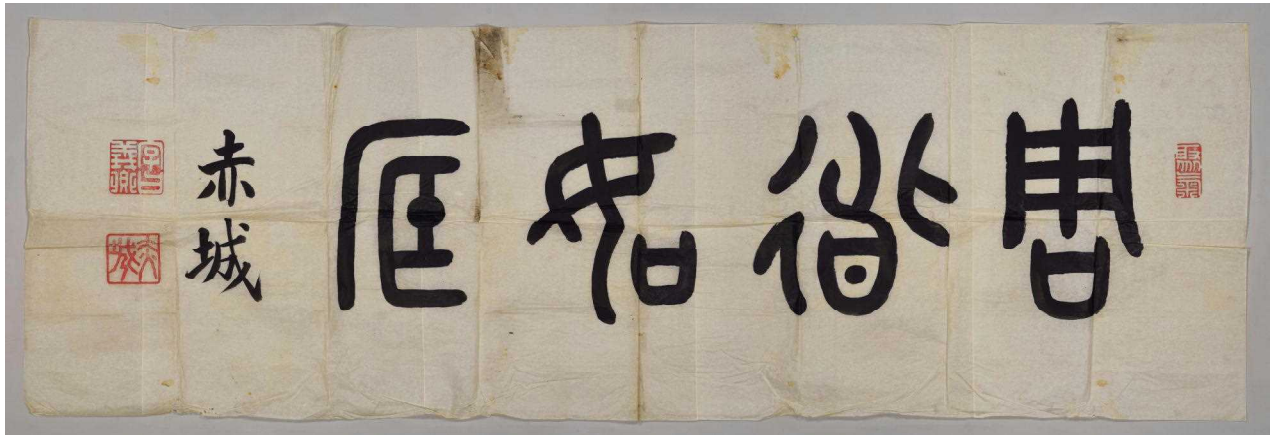


- 3 しずが たけずいどうにしぐちだいがくげんこう 賤ヶ嶽隧道西口題額原稿 1枚 【展示リスト15】
縦77.0cm 横240.7cm (大正～昭和時代)
個人蔵

賤ヶ嶽隧道(現在の長浜市木之本町に所在)の西側入口上部に掲げられている題額の原稿です。大正10年(1921)から高島郡の海津から伊香郡の木之本までを結ぶ道路工事計画が始まり、その一貫として賤ヶ嶽隧道が建設され、同隧道は昭和2年(1927)に竣工しました。開通後は、木之本と塩津浜を結ぶバス路線も運行されました。松居石材商店は、この隧道工事を請け負っていました。

題字は、大正8年から同12年にかけて第16代滋賀県知事を務めた堀田義次郎ほりたぎじろうの手によるものと見られます。文字は右から篆書で「周道如匡」(周道しゅうどうを匡ただす如ごとし)と書かれているかと思われます。曲がりくねって山の中をめぐる道を通ネルでまっすぐにたclus、という意味かと思われます。

なお、昭和45年に新しい賤ヶ岳トンネルができ、現在では新トンネルが主要な道路になっています。もともと、旧賤ヶ嶽隧道も現在通ることができます。



- 4 さわやまざいどう こしゃしん 佐和山隧道古写真 1枚 【展示リスト23】
縦15.6cm 横11.0cm (大正～昭和時代)
個人蔵

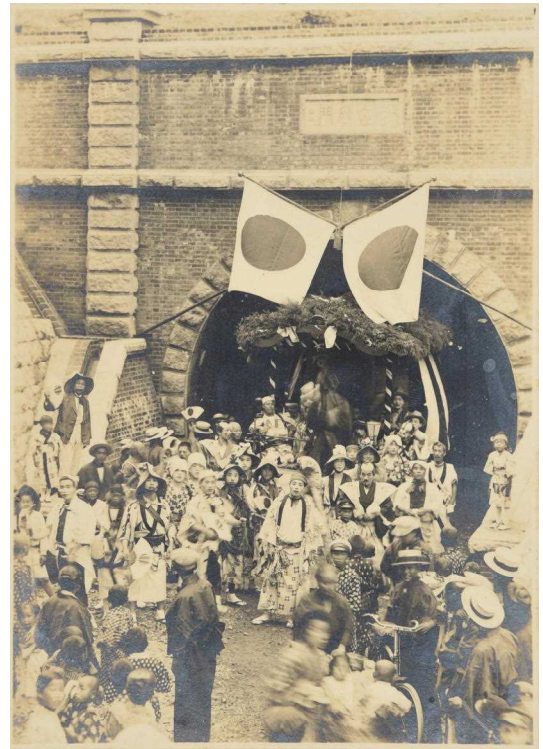
大正13年(1924)に完成した佐和山隧道の古写真です。日の丸が掲げられ、武士の姿に仮装した人などが練り歩き、お祝いムードが伝わってきます。

まだ輸送手段としては馬車や荷車が主力であったときに、「切り通し」と呼ばれた佐和山越えの道を改善しようとして、佐和山隧道は構想されました。大正8年から同13年にかけて滋賀県の事業として工事が行われ、松居石材商店はその工事を請け負いました。この隧道建設は、明治の早い段階から模索されていたもので、地元町村民が長年待ち望んでいたものでした。

この古写真が、佐和山隧道の開通時のときのものであればより理解しやすいですが、残念ながら何の風景は分かりません。とはいうものの、少なくとも佐和山隧道がお祝いをす

るに足る場所だったことが分かります。それは、上記のような待望が実現した場所だったからでしょう。

なお、この隧道は、現在の国道8号線の佐和山トンネルとは別のものです。現在のトンネルの近くの高い位置に所在します。現在は草木が生い茂り、容易に近づくことができません。



5 感謝状(区長・町会議員として町及び大字のために尽力したことに對して)

1通 【展示リスト35】

縦36.3cm 横49.6cm 昭和6年(1931年)1月

個人蔵

昭和6年1月吉日付けで、彦根町大字彦根の町民一同から松居石材商店3代目の松居六三郎に宛てて出された感謝状です。区長および彦根町の町会議員を4期務め、彦根町や大字のために尽力したことに對して感謝の念が述べられています。

区長は、明治27年(1894)に行政上の便宜のために設置された役職で、彦根町(彦根市の前身)内に当初24区設定されました(大正4年(1915)には10区に改正されました)。煩わしい職務だったと言われますが、地域住民の熱望によって松居六三郎は区長就任を引き受けたと本資料には書かれています。また、彼は明治末から大正にかけて、彦根町の町会議員を務めました。

近代には、一般に、経済力を持ち、住民からの信頼や尊敬を得た人物が、市町村の議員や首長にもよく就任していました。松居六三郎も、地域住民から衆望をうけ、家業以外の面でも地域に貢献していたのであり、地域の名望家であったと言えます。

